

栃の木からの手紙

2021年 文月 7月号



芋播種5月16～20日
5月21日タイヤ跡を中耕



6月3日 半培土



6月12日 本培土1回目



春の播き付け作業が無事に終わり作物の管理作業を行っています。今年から意識して変えている事が2点あります。

一つめは、芋の早期培土。

二つめは、常在雑草と休閒緑肥。

今月は芋の早期培土についてお話しします。

2日： 半夏生

7日： 小暑：

10日： 新月 旧6月 1日9

11日： Bihoro Base 販売会(旧後樂園)

22日： 大暑

24日： 満月 旧6月 15日

芋の栽培では、種芋の周りに土を盛り上げてカマボコ状の畝にします。その方が芋の生育や正品歩留まりが良くなり収穫作業もやり易くなります。ただ、培土によって種芋周囲の温度が上がりにくくなる事や芽が表面に出る距離が長くなるため初期成育が遅い様に見受けられます。近年の慣行農法では、種芋を植えて行く傍からカマボコ状に培土をする「一発培土」や種芋を植えて数日後に培土をする「早期培土」が増えてきています。

その後、培土の上に除草剤を散布して雑草の発生を抑えます。

従来の方法では、段階的に数回に分けて雑草の発生状況に合わせて作業を進め、生えた雑草を土で埋める様にします。自然農法でも従来の方法で作業を進めていました。

今年から、正品歩留まりを良くするために従来の方法でありながら本培土の時期を例年より早くに行う様にしてみました。

雑草の生育を見ながら各作業を行った結果、例年より10日以上も早くに一回目の本培土を行いました。芋は萌芽して間もない時期で5cm前後の大きさ。品種によってはまだ萌芽していない。

一回目の本培土は、種芋から芋の実をつける為の「ストロン」と言われるへその緒がまだ伸びていないのでロータリーカルチと言う機械で芋畝の間の部分の土を耕耘しながら柔らかくなった土を盛り上げます。当農場では、一度に2畝しか作業出来ない上にスピードも歩く速さの半分程の為、時間の掛かる作業です。

この後6月18日、研修生4名で芋畝の除草を行いました。培土で埋められなかった雑草を削って貰いました。

二十四節季大暑に向けて植物は大きくなり立秋頃には生殖成長に切り替わる。まだ、次の培土を想定しています。